

市庁舎内「喫煙所」進まぬ撤去

いつまで「分煙」？ 議員苦言

全市的に禁煙を進める横浜市に議会から「対応が遅い」と苦言が飛び出した。14日の決算特別委員会。

「受動喫煙はガン発症リスクが高い。全面禁煙を進めるべきだ」と迫られた。

中区の本庁舎には1階の市民広場など5カ所に喫煙所があり、愛煙家の職員や市民らで盛況だ。10年まで庁内には各局の簡易喫煙スペースがあったが、廃止して喫煙所に集約された。

ただ、市の方針は敷地内、屋内禁煙で、分煙はあくまで当面の措置。全国初の受動喫煙防止条例をつくった県は屋内禁煙を実現し、喫煙所は屋上と屋外に設けている。

今夏、市は高校生向けに喫煙防止のリーフレットもつくり、煙害の怖さを訴えた。加納重雄市議は「高校生向けの冊子には、たばこは絶対ダメと書いてありますよ。いつまで『当面』の措置を続けるつもりか」と問いただした。これに対し、大場茂美副市長は具体的な時期に触れず、「受動喫煙防止に向け、徹底的に取り組んでいきたい」と答弁した。